

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として「笑顔！！尊敬と感謝の思いを忘れない」を掲げている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は朝礼時に運営理念を唱和し、毎月のミーティングの際にも理念について話し合い、常にあたたかい笑顔で介護支援できるように日々取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・理念の内容を入居者・家族・来訪者等に文書や大きな掲示で示し理解していただくようにしている。 ・運営推進会議や地域行事、会合の際に理念を踏まえた当ホームの実践をアピールしている。	○ 1. パンフレットや地域向けの広報誌を発行し、理念に基づく当ホームの実践を理解していただく。 2. 地域行事に積極的に参加し、地域に理解を求めていく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶を交わしたり、入居者と職員が一緒に作ったおやつを近隣の方に配る等して、きっかけづくりをしている。また、ホーム行事を実施する時は案内している。隣接のケアハウスの方々とも日常的に交流している。	○ 今後も継続し、日常にかかわりを持てるようにしていく。施設内のお祭り、行事のチラシやホーム便りも配っていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域のお祭りに参加したり、手芸作品を文化祭に出展したりして、地域交流に努めている。 ・週1回地域のボランティアに来ていただき手芸教室を行っている。 ・地域のお祭りは、運営推進会議でも情報やアドバイスをいただいている。	○ 今後も継続し、手芸教室で作成した小物をお遍路さんに渡し交流をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・代表者・管理者等は地域の様々な会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。 ・認知症対応型通所介護(共用型)に取り組んでおり、憩いの場として利用していただいている。	○	デイサービスの内容を個々のニーズに合わせて更に充実していく。認知症ケアの拠点として広報誌の発行、相談対応ができるよう組織づくり、学習を行ない、地域に貢献していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーティングにて評価の意義を理解、反省し、改善点を改善・実行するようにしている。また、自己評価を全職員で行ない、サービスの質を向上できるように取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に向けての意見・要望・評価や情報提供をいただき、実践している。随時相談もさせていただいている。	○	今後は防災についても相談し、地域との協力体制をつくっていく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設施設の管理者・相談員、ケアマネと連携をとりながら、町の担当者とも連携を密にとり、ホーム情報提供・相談(疑問点や問題点の解決)を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	県社協等の認知症研修に順次参加しているが、現在は必要な方がいないので、全職員の理解は得られていない。	○	認知症研修の報告・勉強会により学ぶ機会を作り全職員が理解し、必要な方がいれば支援できるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県社協等の認知症研修に順次参加したり、職員ミーティングで勉強し理解を深めているが、現在は該当する方はいない。	○	研修、ミーティングだけでなく、日常的な情報(TV・新聞)を活用して、認知症の方の尊厳について徹底していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入・退居時にご家族の立場に立って、不安・疑問点を解消できるよう十分な説明を行ない、理解・納得をいただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に職員から問いかけを行ない、入居者の意見や不満・苦情を傾聴している。外部に対しては運営推進会議や意見箱を設置している。意見・不満・苦情があれば管理者、職員でその都度速やかに話し合い改善している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、全ご家族へ生活状況をお送りし現在の報告をしている。外出先で撮った写真、日々の生活の中で撮った写真も添え、文面だけでは分かりにくい表情や様子も見ていただけるようにしている。また、日常的には面会時に生活の様子や健康状態をお伝えしている。遠方の方へは随時電話連絡している。	○	職員の異動や、新しい職員の紹介等面会に来にくい(高齢・遠方など)ご家族に対して細かい配慮をしていく。(電話連絡、文書、訪問など)
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当者・苦情箱を設置している。面会時に声かけし、意見・不満・苦情を伝えやすいようにしている。意見等については、職員で話し合い、改善ご家族へ報告を行っている。	○	アンケートをとる。家族会など気軽に話しをできる場を増やす。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上、職員ミーティングを行ない、全職員から意見や提案を聞き、また随時面談し個別の意見を聞いており、問題解決、サービス向上にもつなげている。	○	継続していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	基準上必要な人員を配置した上で、行事・受診などその日に合わせて職員を配置している。急な欠勤には交代するなど、柔軟に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の不安を和らげるため、異動等は段階的に行ない、声かけの工夫や業務内容の引継ぎをしっかりと行ない、全職員が協力して入居者と新しい職員との信頼関係ができるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのレベルに合った外部研修受講、勉強会(報告会)ができるようにしている。	○ 今後も継続していき、知識やスキルを向上させると共に、笑顔・感謝・働きがいを浸透させる人材育成も実行していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じての同業者との交流、法人グループ内での交換研修を実施している。	○ 現在の取り組みを継続する。系列事業所で毎月実施しているセミナーを通じて地域の同業者と意見交換を行ないサービス向上につなげる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互が気兼ねなく話し合うミーティングを行っている。日常的に職員のストレス軽減ができるよう、施設長・主任・管理者による面談を随時行ない、隣接クリニックでの健康管理、親睦行事を行っている。	○ 今後も職員の心身ストレス軽減を実行する。EMを活用した健康づくりをする。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常業務の中で職員の気づきやふりかえりを大切にする事が奨励され職員のやる気を高めている。資格取得や研修受講の支援、基本的なルール、接遇を守らせた上で、ほめて育てる方針で向上心を高めている。ミーティング・面談を通じて個々の意見の反映により、働きがいを高めている。	○ 現行の取り組みを継続する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と面談を行ない(訪問を含む)心身状態や行動に気を配り、本人が困っている事、不安な事を傾聴している。職員との信頼関係ができるように、入居希望者には共用型デイサービス利用をすすめている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用を前提に話を進めてしまうのではなく、困っている事や不安に思っている事、求めている事を傾聴・受容する機会を事情に応じて管理者やケアマネができる限り設けて、当ホームの取り組みを理解していただき、納得・信頼していただくよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族との話し合いを通じて、必要とされるサービスを優先順位をつけて提案し、実現できるようにしている。共用型デイサービス、ショートステイ、徘徊探知機の提案など他のサービスも紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に共用型・併設型デイサービス利用でホームに馴染んでいただいたり、入居後は今まで家で使用していた物を居室に多く持って来ていただいたり、家族・友人などの面会を多くしていただいたりしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、調理・清掃などの家事、おやつ作りや手芸を一緒に行ったり、昔の話を聞かせていただきながら、職員は「ありがとうございます」と感謝の言葉をいつも伝えて学ばせていただき、支え合う関係づくりにつとめている。	○	現在の取り組みを継続すると共に、今後は一緒に色々教えていただいたり、収穫や観賞の喜びと一緒に味わいたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所時や電話で情報交換し、一緒に考え支えることができるよう支援している。	○	現在の取り組みを継続すると共に、ファミリーカンファレンスや家族会を増やしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者とご家族の話を傾聴し、人間関係を理解して距離を縮めることができるよう努めている。認知症の周辺症状についてご家族に説明し、コミュニケーションを円滑にしたり、新しい関係づくりを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出・外泊の支援、馴染みの人がデイサービスに来られる時は会っていただく。お出かけ(行事)の時は順次本人の馴染みの場所に行っている。	○	個々の地域の民生委員や以前の担当ケアマネージャーに協力をお願いして、面会に来ていただく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりに役割を持っていただくと共に職員が入居者同士の橋渡し役になって、日常生活の様々な場面を通じて、馴染みの関係ができるように支援、見守りを行っている。入居者同士の以前の関係についても把握している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	施設や病院を訪問したりして、本人やご家族との交流を可能な限り大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者、ご家族の希望意向を傾聴し、情報収集を行い、個々の趣味や生活リズム、その人らしい生活を導き出せるよう管理者、ケアマネージャーを中心に全職員が努めている。	○	今後も継続していく。意思疎通が困難な場合(本人・ご家族)については、その他の身近な方(近隣・親類・担当ケアマネ等)からも情報収集する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族、担当ケアマネ等から本人の生活歴を聞いている。	○	本人、ご家族に同意をいただいた上で、その他の身近な(近隣・親類友人など)からも情報をいただく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	心身状態や日常生活を観察、記録し全職員が生活パターンや変化を総合的に把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から入居者の傾聴・観察に努め、また、ご家族の希望を聞いた上で、全職員で話し合い個々に合った計画を作成している。	○	本人・ご家族が一緒に参加し、意見を述べていただけるケアカンファレンスを増やしていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の定期的な見直しの他、変化が生じた場合は関係者(本人、ご家族、主治医など)と話し合い、現状に合った計画書を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録、チェック表、業務日誌、申し送りにより、情報交換、共有を行い、実践や介護計画の見直しに結びつけている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の心身状態、要望やご家族の要望に応じて、隣接の診療所、ケアハウス、介護老人保健施設と連携し、柔軟な支援体制をとっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	週1回ボランティアに来ていただき入居者・職員と一緒に手芸を楽しんでいる。教育委員会を通じて、入居者の作品を文化祭に出展している。年1～2回防災訓練を消防所から来て、指導していただいている。所轄署からは併設のケアハウスで年1回防犯教室に来てもらったり、管理者が訪問し行方不明の協力要請をしている。	○	今後も継続する。災害時の地域との協力体制をつくる。入居者の希望するボランティア、傾聴ボランティアに来ていただく。保育所との交流をする。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	管理者等が町内の地域ケア会議に参加し、他の事業者と情報や意見交換をしている。訪問理容を紹介していただき、月1回来所してもらっている。色々な介護用品を紹介してもらっている。	○	今後も継続し、個々に合ったサービスを充実させる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回の運営推進会議以外にも日常的に情報・意見交換をしたり、助言をいただいております、協働ができています。	○	今後も継続していく。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向を聞き、かかりつけ医の受診や電話で指示を受けるなど、付き添いも含めて支援している。隣接の診療所とは24時間連携がとれる体制ができています。また、協力医療機関である近隣の病院には緊急時の支援も受けている。	○	今後も本人やご家族の意向を踏まえ、安心して生活していただける医療連携を推進する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隣接の診療所の医師にいつでも相談できる。ご家族に症状について説明・同意の上で専門医の治療や相談を受けることができるように支援している。精神安定剤が処方された場合は、日々の経過を医師に連絡している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設事業所の看護職や隣接診療所・老健の看護職と相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。また、運営推進会議の委員である町の保健師に気軽に相談することができ、アドバイスもいただける関係ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	毎日のお見舞いに行くと共に、入居者が使用していた日用品・衣類を病室に届けて、安心して療養でき馴染みの関係が維持できるよう努めている。ご家族との連絡を密にし、早期退院に向け医療機関とも連携している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時から重度化した場合の話し合いを行っている。文書による同意もいただいているが、状態変化に対しては本人またはご家族の意思を確認し、医師とも相談の上対応することになっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化、終末期を迎えた入居者がいる場合は、当ホームとしてどの程度までお世話できるかを隣接の診療所の医師に相談しながら、ホーム全職員で検討の上、本人の気持ちやご家族の意向にできる限り添えるよう支援する方針をとっている。	○	事業所の「できること」を多くしていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームとしては住み替え先に対する詳細な情報提供(フェイスシート等)、隣接の診療所の医師またはかかりつけ医からは紹介状をいただくと共に、住み替えに関わる関係者間で相互訪問、情報交換、話し合いを行ってダメージを防ぐようにしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として常に尊敬の気持ちを持ち、プライドやプライバシーに配慮した声掛け・傾聴等の対応を行っている。	○	個人情報保護の勉強会を行う。入居者に対する接遇の仕方の勉強会を行う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望や自己決定を支援する為、傾聴・情報提供や説明を繰り返し、強制することなく、待つことを大切にして信頼関係をつくるように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを把握し、一人ひとりのペースに合わせて職員は動くように努めている。	○	家事については一人ひとりに合った役割を担っていただき職員と一緒にする。職員のペースでする仕事は、職員の多い時間や入居者が活動されていない夜間等に行い、できる限り入居者中心にする。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者の希望を聞いて衣類交換やお化粧の支援をする。お気に入りの美容院を利用できるよう予約し、美容院の方も送迎してくれている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりのしたいことやできることに合わせて、職員の見守りのもとに、皮むき、味付け、味見、盛り付け、配膳、テーブル拭き、後片付けをしていただいている。テーブルの席もゆったりと取り、職員と一緒に会話をしながら食事をしていただいている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	当ホームでは現在、酒・たばこを好む方がいないので今後考えていきたいと思っている。週2回町内のスーパーが出張販売に来てくれており、入居者はおやつや日用品の買い物を楽しまれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により排泄パターンを全職員が共有している。個々の状態に配慮しながら、日中はトイレ誘導を行い、夜間も必要な方のみ紙パンツを使用し、自立支援に努めている。下着等の交換を嫌がる場合にも強制せず、声掛けをし納得して交換していただくようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調、希望に合わせて入浴していただいている。入浴を嫌がる方に対しても強制せず、入浴に対する不安を和らげる声かけ・誘導により保清に努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握している。日中は入居者の希望や体調に合わせて軽作業やレクリエーションに参加していただき、過度の昼寝にならないようにしている。夜間どうしても眠れない時は傾聴や声掛けで安心していただくようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の家事については、食事の準備・後片付け、掃除、洗濯物たたみ等、無理強いせず、できることをお願いしている。本人やご家族から聴いた生活歴から、趣味や好きなことをレクリエーションでしていただいている。必ず「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉でお伝えしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりの金銭管理能力に応じて、買物や行事参加時の支払いの支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、本人の希望と心身状態により散歩に出掛けている。屋外での日なたぼっこをしながらティータイムやレクリエーションを楽しんでいただいている。	○	地域の方々、ボランティアをお願いして戸外へ出掛けられる回数を増やす。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感を味わっていただくためにお花見や景色の良い所へ出掛けたり、レストランへ行ったりと入居者の希望を聞きながら月1回行っている。ご家族との外出・外泊を可能な方はお願いしている。	○	ご家族との外出・外泊ができるように(増やせるように)支援とお願いを今後も行う。ボランティアをお願いして普段行けない場所への外出をできる限り増やす。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば、手紙を出したり、電話をかけたりの支援を行っている。淋しいと言われて、職員との会話で納得されない時にはご家族と電話で話していただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や馴染みの方たちが来所された時は笑顔で対応させていただいている。併設のケアハウスに入居されている方も気軽に来てくれている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県社協の認知症研修に順次参加したり、職員ミーティングで勉強したりして、全職員に理解してもらい、身体拘束をしないケア・状態に合わせたケアに努めている。	○	今後も継続して身体拘束をしないケアと職員教育を行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	段差のある所は入居者の転倒の危険が大きいので鍵をかけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送りを徹底し、日中は全職員による見守り、所在確認、変化の把握に努めている。夜間は夜勤者による定期的な巡回を行い、24時間入居者の安全に取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ホーム内で一律に保管場所を決めて管理するものと、入居者一人ひとりに合わせて管理が必要なもの、必要でないものに分けている。声かけや見守りも入居者の心身状態に合わせて行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	記録・申し送りにより、全職員が入居者1人ひとりの心身の状況に関する情報を共有し、見守りや必要な介助を行い、事故防止に努めている。万一事故が発生した場合は必要な処置、ご家族への報告、再発防止対策を検討するようにしている。	○	ホーム内での様々な場面を想定した事故防止の勉強会を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	順次、救急救命等の学習会・訓練に参加し応急処置、蘇生術など対応できるように勉強会を進めている。夜勤時の緊急時対応マニュアルを整備している。	○	全職員が実際に現場で実行できるかを検証しながら、今後も継続していく。特に夜勤時の急変対応訓練を実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回併設のケアハウスと合同で避難訓練を実施している。また年1回消防署に来てもらって点検、訓練、指導を受けている。	○	災害発生時のマニュアル整備を行う。災害時の備品の準備、地域の方々との協力・連携について取り組む。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	職員間では入居者の一人ひとりの心身状況について記録、申し送り、ミーティングで情報共有し、抑圧感を感じさせないように見守りや必要な介助を行うよう努めている。ご家族などに対しては、面会時、電話、文書により心身状況や変化について説明し、リスクに対する理解を求めるよう努めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックを朝・夕と行い、個人記録、全体ノート、申し送りにより全職員が情報共有し、変調を早期発見し、隣接の診療所の医師に報告し指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の記録ノートに処方箋をファイリングしており、職員が把握し、誤薬が発生しないようにしている。入居者に変化があった場合は速やかに隣接の診療所の医師に報告し指示を仰いでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便チェック記録を毎日行っている。水分補給、レクによる運動、個々の入居者の好み等に配慮しながら食物繊維の多いものを摂れるよう工夫している。強度の便秘症の入居者については、隣接診療所の医師への相談も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、入れ歯洗浄を行い、口腔内のチェックをしている。チェックの記録も行い気が付いた事など全体ノートに記入している。一人ひとりに合った声掛け、必要な介助により口腔ケアは徹底できている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量チェックをしている。個々の食欲を排便チェックと照らし合わせ職員が把握しており、無理に食事を勧めないようにしている。後で捕食になるような食物を召し上がっていただいている。生活に張りを楽しみを感じてもらうために、買物に出掛けた時などに個人の好みの物を買っていただき召し上がっていただいている。	○	10時と15時に水分補給を行うと共に居室にはペットボトルに入れたお茶を用意しての飲水を促しているが、水分量のチェックにも取り組んで行きたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防マニュアルを基に全職員が勉強している。隣接の診療所の医師(内科・皮膚科)看護職の指導も随時受けている。手洗いやうがい、インフルエンザ予防接種を入居者も職員も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いを徹底している。使用する食器調理用具の洗浄・布巾・おしぼりの消毒は毎日行っており、食材も日を置かず、使い切るように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも気軽に立ち寄っていただけるように、明るく清潔を心がけ、玄関前には、花を植え全職員が笑顔での挨拶に努めている。温かみのある照明と日差しがよく入る共用スペースになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁には、入居者の制作した季節の作品など飾り、テーブルにも花を飾り、入居者がくつろげるように工夫している。テレビや音楽の音量も調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファや椅子を置き、入居者が思い思いにゆったりと過ごしたり、他の入居者、スタッフ、来客と交流されている。	○	絵をみたり、音楽を聴いたり、読書をしたりするスペースを作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を聞いたり、ご家族と相談したりして、家庭で使用していた馴染みのある家具や日用品を居室に置き、入居者が安心して、自分の住まいとして心地よく暮らせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿・温調節や臭気については換気を十分に行い除湿、冷暖房の調節を適切に行っている。また、居室には湿・温度計を取り付けチェックしている。個々の体調に合わせて、快適に過ごせるようにしている。	○	今後も継続して換気・空調に配慮していく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や導線上に障害物がないようにし、各所に手すりをつけて安全に移動できるようにしている。身体機能に合わせて夜間ポータブルトイレを設置している。また、入居者の加齢・重度化もあるので、浴室内の安全な移動ができるよう手すりの取り付けを検討している。	○	PT等専門家のアドバイスを受けている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を活かして、居室には目印ののれんや飾りをつけている。トイレには大きな字で張り紙をして、移動場所を認知しての移動ができるようにしている。季節や日・時の分かる飾り付けを入居者と職員が一緒に作っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺の花壇の水やり・メダカのえさやりなど職員が付き添い一緒に楽しんでいる。天気の良い日は、日なたぼっこやティータイム、屋外レクも楽しませている。	○	一人ひとりの心身の状態に合わせて園芸を行い、観賞や収穫を楽しんでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「笑顔、感謝を言葉・表情で心から伝える、一人ひとりを大切にする」ことをケア全般に実践しようと努めています。